

愛知県立芸術大学（以下、「本学」と記す）では、「教員による自己点検・評価シート（以下、自己点検・評価シート）」を平成 21 年度より実施しています。年度当初に各教員（客員教授を除く専任教員）が各自、「研究活動」「教育活動」「大学運営」「地域貢献」について目標と計画を立て、次年度当初に自己評価をするものです。

「26 年度自己点検・評価シート」は、各教員が年度当初に「計画・目標」を記載し、それをもとに 27 年 2 月初旬に「実績・自己評価」を記入して提出しました。

また、27 年 2 月下旬に教員評価会議を開催し、「評価シート」に基づき教員評価を行いました。

以下は、26 年度の「教員による自己点検・評価シート」の報告です。

■美術学部

美術学部では専任教員（客員教授を除く）47 名中 46 名の教員が「自己点検・評価シート」を提出しました。未提出 1 名は退官された教員でした。（対象者 47 名について提出率 97.8%）。

・研究活動

研究活動は充実して行われています。個展、グループ展覧会などの研究発表、さまざまな表現活動、ワークショップ、執筆活動など多岐にわたり活発です。

・教育活動

教育活動も実技、演習、講義などさまざまな授業形態や、学部から博士前後期まで一人の教員がかかわっている場合も多い状況ですが、積極的に取り組んでいます。研究活動と教育活動は連動していて両立していると言えます。

・大学運営

大学運営は人員が少数の専攻では負担が多いようです。委員会などの出席は時間を調整することが難しく、研究・教育活動との両立は大変ですが、真摯に取り組んでいます。

・地域貢献

地域貢献の定義は教員によって違いがありますが、いろいろな形で社会に貢献しています。若い教員や専門領域によっては社会貢献の機会が得にくい事情もあるようです。

■音楽学部

音楽学部では専任教員（客員教授・転出教員を除く）36 名全員の教員が「自己点検・評価シート」を提出しました（対象者 36 名について提出率 100%）。

・研究活動

多岐にわたる研究活動が活発におこなわれています。教員の作品・研究・演奏発表が本学の関わり（主催 / 後援演奏会、本学の幹旋する企画への出演など）によりおこなわれるケースが増えています。

・教育活動

カリキュラムの改革が少しずつ進め、教員の多様な研究活動を教育に反映させる取り組みを積極的におこなっています。研究発表のためのしっかりとした教育、という芸術大学の特色が生かされていると言えます。

・大学運営

「少人数教育」は学生のみならず教員も少人数で活動せねばならないため、各種委員会や専攻（コース）の運営に忙殺されることとなりますが、より良い組織作りのための自助努力が続いています。

・地域貢献

ローカルでマイナーな活動にも誠実に取り組む姿勢が読み取れます。演奏機会がその地域の定例行事となり発展していくケースもあり、教員の社会活動となっていることも見られます。

■まとめ

教員による自己点検・評価」は試行期間（1年）も含めて4年を経過しました。ほぼ全員が自己点検・自己評価し提出することが定着しています。

A4サイズに研究活動・教育活動・大学運営・社会貢献の4項目について書きますが、書式に従って文書量、内容も的確に表記されています。一部の教員にA4サイズを超えるものもあります。今後、文字のポイント数なども調整してA4内に収まるようにしたいと思います。